

リカムビス水懸筋注 600mg

リカムビス水懸筋注 900mg

【この薬は？】

販売名	リカムビス水懸筋注 600mg REKAMBYS Aqueous Suspension for IM Injection	リカムビス水懸筋注 900mg REKAMBYS Aqueous Suspension for IM Injection
一般名	リルピビリン Rilpivirine	
含有量 (1バイアル中)	リルピビリン 600mg / 2mL	リルピビリン 900mg / 3mL

患者向医薬品ガイドについて

**患者向医薬品ガイド**は、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」  
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、抗ウイルス剤（非ヌクレオシド系逆転写酵素阻害剤）と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、HIV-1（ヒト免疫不全ウイルス1型）の逆転写酵素を阻害して、ウイルスの増殖をおさえます。
- ・次の病気の人に、医療機関で使用されます。

**HIV-1感染症**

- ・この薬は、ウイルス学的失敗の経験がなく、切り替え前6ヵ月間以上においてウイルス学的抑制（ヒト免疫不全ウイルス [HIV]-1 RNA量が50 c o

i p i e s / m L 未満) が得られており、リルピビリンおよびカボテグラビルに対する耐性関連変異を持たず、この薬への切り替えが適切であると判断される人に使用されます。

- ・この薬は、カボテグラビル注射剤と併用されます。

## 【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 次の人は、この薬を使用することはできません。
  - ・過去にリカムビス水懸筋注に含まれる成分で過敏症のあった人
  - ・次の薬を使用している人  
リファンピシン (リファジン)、リファブチン (ミコブティン)、カルバマゼピン (テグレトール)、フェノバルビタール (フェノバル)、フェニトイン (アレビアチン)、ホスフェニトイン (ホストイン)、デキサメタゾン全身投与 (デカドロン)
  - ・次の食品を使用している人  
セイヨウオトギリソウ (セント・ジョーンズ・ワート) 含有食品
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。
  - ・不整脈をおこしやすい人
  - ・B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスに感染している人
  - ・妊婦または妊娠している可能性のある人
  - ・授乳中の人
- この薬には併用してはいけない薬 (○次の人は、この薬を使用することはできません。を参照) や飲食物、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。
- この薬を使用する前に薬剤耐性検査 (薬が効くかどうかの検査) を行うことがあります。
- この薬の注射前に、リルピビリン経口剤をカボテグラビル経口剤と併用して1ヵ月間を目安に (少なくとも28日間) 飲み、リルピビリンおよびカボテグラビルに対する忍容性 (副作用があらわれたとしても、十分耐えられる程度であること) が確認されます。

## 【この薬の使い方は？】

- ・この薬は注射薬です。
- 使用量および回数**
  - ・使用量、使用回数、使用方法等は、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。
  - ・通常、成人の使用量および使用回数は次のとおりです。

〈1 ヶ月間隔〉

販売名	リカムビス水懸筋注 600mg	リカムビス水懸筋注 900mg
初回注射	使用しません。	1回、臀部筋肉内に注射されます。
初回注射1ヵ月後以降 (2回目以降)	1ヵ月に1回、臀部筋肉内に注射されます。	使用しません。

〈2 ヶ月間隔〉

販売名	リカムビス水懸筋注 600mg	リカムビス水懸筋注 900mg
初回注射	使用しません。	1回、臀部筋肉内に注射されます。
初回注射1ヵ月後 (2回目)	使用しません。	1回、臀部筋肉内に注射されます。
初回注射3ヵ月後以降 (3回目以降)	使用しません。	2ヵ月に1回、臀部筋肉内に注射されます。

●どのように使用するか？

- ・臀部筋肉内に注射されます。
- ・この薬とカボテグラビル注射剤は、同日に臀部筋肉内の異なる部位に注射されます。
- ・注射部位をもまないようにしてください。



**【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】**

- ・この薬は、患者さんやそれに代わる適切な人が次の点について十分に理解できるまで説明を受け、同意してから使用が開始されます。
  - 本剤は投与スケジュールが遵守されない場合、ウイルスの再増殖及び薬剤耐性リスクのおそれがあるため、投与スケジュールを遵守してください。
  - この薬はH I V感染症を根本的に治すものではありません。この薬を使用している場合、病気が進行する可能性がありますので、身体状況の変化はすべて医師に連絡してください。
  - この薬を長く使用した場合の影響については現時点ではわかりません。
  - H I V感染症の治療薬による効果的なウイルス抑制は、性的接触による他者へのH I V感染の危険性を低下させますが、その危険性を完全に排除することはできません。
  - H I V感染症の治療薬が、血液等による他者へのH I V感染の危険性を低下させるかどうかについては証明されていません。

- この薬は他の薬との相互作用に注意する必要があります。現在使っている薬をすべて医師に報告してください。また、新たに薬を使い始める場合はあらかじめ医師に相談してください。

- B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスに感染している人がこの薬を使用する場合には、定期的に肝機能検査が行われます。
- この薬の注射後数分以内に、呼吸困難（息苦しい、息切れ）、気管支けいれん（息がぜいぜいする、息をするときヒューヒューと音がする、突然の息切れ）、激越（感情が激しくたかぶった状態、落ち着きがない）、腹部けいれん、発疹・じんま疹、浮動性めまい、潮紅、発汗、口腔内しびれ感、血圧の変化および疼痛（背中や胸部など）のような重篤な注射後反応があらわれることがあります。
- 妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- 授乳を避けてください。
- セイヨウオトギリソウ（セント・ジョーンズ・ワート）含有食品はこの薬の効果を下げおそれがありますので食べないでください。
- 他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

## 【この薬の形は？】

販売名	リカムビス水懸筋注600mg	リカムビス水懸筋注900mg
容器		
性状	白色の懸濁液	

## 【この薬に含まれているのは？】

販売名	リカムビス水懸筋注600mg	リカムビス水懸筋注900mg
有効成分	リルピピリン	
添加剤	ポロキサマー338、ブドウ糖水和物、リン酸二水素ナトリウム一水和物、クエン酸水和物、水酸化ナトリウム	

## 【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

〈本剤とカボテグラビル注射剤の併用療法に関連したお問い合わせ（カボテグラビルとの併用療法におけるリルピピリン経口剤に関するお問い合わせを含む）〉

販売会社：グラクソ・スミスクライン株式会社

(<http://jp.gsk.com>)

ヴィーブヘルスケア・カスタマー・サービス

電話：0120-066-525

受付時間：9時～17時45分（土、日、祝日およびグラクソ・スミスクライン株式会社休業日を除く）

〈併用療法に関連しない本剤に関するお問い合わせ〉

製造販売会社：ヤンセンファーマ株式会社

メディカルインフォメーションセンター

電話（フリーダイヤル）：0120-183-279

FAX：0120-275-831